

- 企業のPBR、ROEに応じて、政策的手当を変えていく必要がある点には賛同します。
- 一方、企業の打ち手がPBR、ROEで変わるべきという点については、再考を要すると考えます。

<p>私の理解</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. PBR1倍・ROE8%といった指標と目標は、資本市場の期待を示す<u>最低ライン</u>として、資本市場に継続的に参加する資格と位置付けられると認識しております。 2. 背景には、「<u>資本は公共性を持つもの</u>であり、経営者はその有効活用に向けた責務を負うものである」という考え方があると理解しています。 3. 経営者として、外部投資家との対話を実りあるものにするための「スタンダード」として、意義あるものと考えます。
<p>課題認識</p>	<ol style="list-style-type: none"> 4. 一方、企業経営を<u>全面的に評価できる指標</u>ではない、と考えます。 <ul style="list-style-type: none"> • 経営の本質は、<u>価値創造</u>とそれに基づく<u>社会への貢献</u>であり、ROEやPBRがそれを全て正確に評価・表現できると考えているとしたら、現実に即していないと考えます。 • 本指標の絶対視は、巨額な事業投資や事業再編（撤退）による当該指標の低下を恐れ、却ってリスクテイクを妨げるおそれがあると強く感じます。
<p>提案</p>	<ol style="list-style-type: none"> 5. 本報告書に、PBRとROEによる分類を行う意図を改めて整理し、明示してはどうでしょうか。 6. 企業経営者は、<u>それに加えて</u>、自社のパーパスや戦略に基づいた目標およびその計測指標の説明責任を負う、ということも明確にすることも一案かと思えます。 <ul style="list-style-type: none"> • 「世界に良いインパクトを及ぼす」ならば、「売上高」や「シェア」。 • 「高付加価値製品の提供」であれば、「単価上昇率」。